Ⅳ-49　光と陰影の意匠性に関する研究（６）
－チボリ公園を対象として－

京都大学工学部　正　員　佐佐木　綱
京都大学工学部　正　員　○川崎　雅史
京都大学大学院　学生員　堀　秀行
京都大学工学部　学生員　加藤慎太郎

１．はじめに

都市の公園は、本来閉じられた空間ではあるが、人が集まって遊技活動を行い、かつ多くの緑陰の中で休息したり、風景を鑑賞するといった多様な景が存在することが好ましいと思われる。コペンハーゲンのチボリ公園は、150年もの間、市民のシンボルとして都市に根付き、かつ現在もアミューズメントパークの模範とされることが多い。このような人の集積に成功した空間領域には、都市の理想的な遊技、休息空間のモデル景が隠されているのではないかという疑問が生じ、本研究はこれを光と陰影の景の観察から見い出してゆきたいという動機に基づく。これは景観の基本的な輪郭構図の意匠や秩序を見い出すことに研究の主眼を置いているからである。

２．景観の整理手順

夏季の晴天、昼間12時から14時までの間、歩行可能な公園内の園路から、35㎜レンズで意識視野に任せ、網羅的に写真撮影を行い、約200枚のサンプルを得た。次に、光と陰影の基本タイプ、構成要素が同じ組み合わせのものを整理した結果、つぎのような景観を観察することができた。

３．チボリ公園に現れる光と陰影の景

入口から出口に至るまでの園路順に観察できる景観的特徴を述べる。【】内に基本タイプを示した。

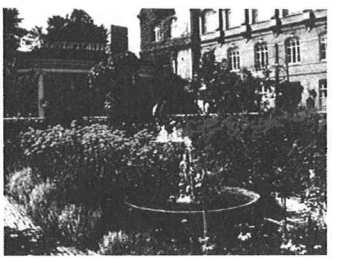
①「光のゲート」【光どり】＜写１＞

チヴォリ公園の正門は、黒色のスティールに、白色のサインと窓枠の縁どりが明確に刻まれ、スレンダーでありながら堅固な印象を与える。また、側方はギリシャ建築の模倣を行い、歴史性を感じさせるデザインである。門の上方にできる深い樹林の光どりと木漏れ日がが軸線をなし、さらに奥へと入場者を誘導する。

②「光の野外劇場」【光】＜写２＞

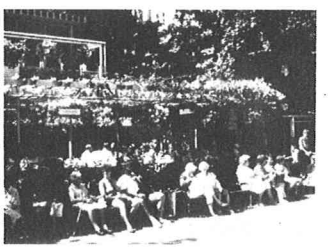
中央園路より見えるミニチュアのお城などが並ぶ野外劇場は、赤・黄などの暖色の極彩色がオープンスペースに差し込む光の中で、おとぎの国のイメージを演出している。園路より一段さがった場所に観覧席があり、子供たちの観覧する姿と上方にある人形舞台とが重なる。

③「光の中の花と噴水」【光】＜写３＞



公園内のほとんどの場所に、花が咲き乱れ、彩りを添えている。花壇は、直線式、円型式、帯状、面状、立体式と、様々な形態が用いられている。また、噴水のしぶきは光の変化をつくり、花と樹々の景に動的な印象を映す。

④「休息場の影」【影どり】＜写４＞



建築物の庇には、花や葉が絡ませてあり、和らいだ木漏れ日に包まれる休息の場所をつくる。ベンチも道に沿って設置され、噴水や花壇、池の風景、子供達が遊ぶ様子をお年寄りが鑑賞する機械が多くなっている。

⑤「木陰の道」【影どり】

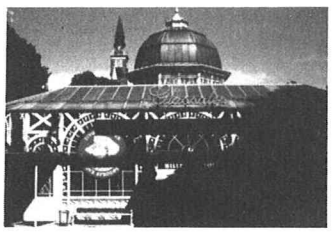
園路は中ごろで、まとまった高木が両側に生い茂る森の中の道になる。ここでは、木漏れ日に包まれ、柔らかでカラフルな風景をつくる。各ゾーンを結び付ける歩行空間を、人々は休息しながら次のゾーンへ進むことができ、他のゾーンの代表的な景が見える。

⑥「森の道しるべ」【陰】

⑤の樹林の中に、白色のピエロを形どったベンチが数カ所置かれ、白色に輝きくことから、森の中の道しるべにな<写５森の道しるべ>っている。

⑦「光の中の建築」【光】<写６>

キャバレー劇場、コンサートホールなどの建築物が、園路のアイストップになるような場所にある。尖塔の部分が強調され、市庁舎の塔との重なりを大切に意匠されたことが分かる。明るい場所に極彩色が際立ち、道行く人々の視線を誘導する。



⑧「鏡映りの観賞」【鏡映り】<写７>

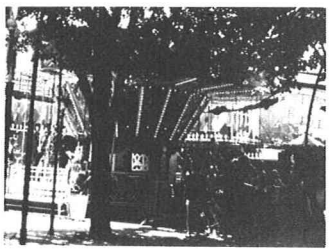
子供の遊び場の前には池があり、公園外部の市庁舎の塔がランドマークになり、風景式庭園を形成している。これらの風景が中央池に映る様は、公園の中で最も大きいオープンスペースを形づくる。

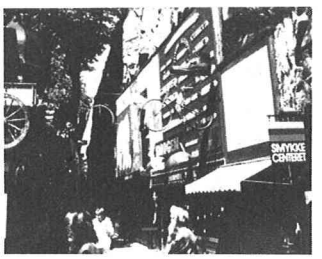
⑨「子供の遊び場」【影どり】<写８>

木漏れ日の中に、全体的にベンチや遊び場がおかれ、ベンチの配置の仕方は野外ステージの場合と似ている。ベンチの前には北欧の街のミニチュアがある。小さな砂場の中に、オブジェや滑り台、ジャングルジムなどがたくさんおかれ、色彩も豊かである。幼児と母親が安心しながら一緒に楽しめる柔らかい空間となっている。

⑩「陰の中のイルミネーション」【陰】<写９>

アミューズメントゾーンの回転木馬は、日中でも光のイルミネーションが陰の中で輝き、その動きに併せて賑やかな景をつくっている。また、チヴォリ公園の夜は11万個の照明が輝き、夏期には12時前の花火でしめくくられる。



⑪「街のサイン・光と陰影の列（シークエンス空間）」【陰・光どり】<写１０>

街の飲食街を模倣した小径であり、建築物には原色のサインが沢山張り付いている。道幅が狭く、両側面が高いため、斜めから射す光はストリートにまで届かない。陽光は壁面を照らし、光の中に色彩豊かな看板が掛けられ、サインがスポットライトを浴びた状態となって、よりサインが強調される。薄暗い陰の中で、木漏れ日に映えるサインが界隈性を表現し、非日常的なイメージを演出している。